

## 【基礎研究医プログラム】

将来基礎研究医を目指す医師に対して、初期臨床研修より基礎医学教室配属期間を設けたプログラムである。

基礎系の教室を通じて基礎医学研究歴7年以上の複数の医師が指導できるキャリア支援体制が確保されており、すべての基礎系研究室は論文指導を行う環境及び学会発表の機会が用意されている。

### (1) 研修科目について

#### 1年次必修科目…内科6ヶ月、救急科3ヶ月

救急科研修については3ヶ月のうち1ヶ月を麻酔科へ変更することを認める。

#### 2年次必修科目…地域医療2ヶ月（一般外来研修1ヶ月を含む）基礎医学教室配属6ヶ月

上記以外の必修科である、外科2ヶ月、産科婦人科、小児科、精神科神経科の各1ヶ月は1年次もしくは2年次のいずれかで研修する。

なお、外科研修については、1診療科を2ヶ月もしくは2診療科を1ヶ月ずつから選択できる。

1年目				
内科(6ヶ月)	救急科 (3ヶ月)	小児科 (1ヶ月)	産科 婦人科 (1ヶ月)	精神科 神経科 (1ヶ月)
2年目				
地域医療 (2ヶ月)	外科 (2ヶ月)	選択科 (2ヶ月)	基礎医学研究 (6ヶ月)	

(2) プログラム開始時に、所属する基礎医学系の教室を決定し、オリエンテーションを行う。

(3) 選択研修期間に6ヶ月の基礎医学教室配属期間を用意する。

(4) 基礎医学研修を開始する前に、プログラム責任者による臨床研修の到達目標の到達度の評価を行う。

(5) 臨床研修後4年以内を目処に、作成した基礎医学の論文を研修管理委員会に提出する。

(6) 臨床研修終了後にプログラム修了者の到達目標の達成度と臨床研修終了後の進路を近畿厚生局に報告する。

当該プログラム修了者で、本学大学院修了者は特任助教として採用し、研究をサポートすることも可能である。特任助教へのキャリアパスとしては、下記の4コースがある。

- 1) 初期臨床研修（基礎研究医プログラム）→大学院→特任助教
- 2) 初期臨床研修（基礎研究医プログラム）→大学院→海外（国内）留学→特任助教
- 3) 初期臨床研修（基礎研究医プログラム＋夜間大学院）→後期研修（夜間大学院）  
→特任助教（夜間大学院は初期臨床研修1年目または2年目から入学）
- 4) 初期臨床研修（基礎研究医）プログラム→後期研修→大学院→特任助教

なお、特任助教の所属は原則として本学基礎医学講座、基礎・臨床連携講座、先端医学研究所とする。臨床講座に所属する場合は、上記講座との共同研究に基づく基礎的研究とする。

兵庫医科大学では医学部において研究医枠運用を開始しており、2020年2名の研究医枠の研修医を兵庫医科大学病院で採用した。うち1名は本年研修1年目より夜間大学院に入学している実績を有する。